



Profile — 坂元 昂

1933年生まれ。東京大学文学部心理学学科卒、同修士課程、博士課程修了。文学博士。東京工業大学、大学入試センター、(独)メディア教育開発センター名誉教授。(社)日本教育工学振興会会長、特定非営利活動法人とうきょうED理事長。2008年4月より、東京未来大学学長。『教育工学の原理と方法』など著書多数。

私は諸先輩のように海外の大学で長期留学した体験がなく、代わりに、教育や研究の現場を視察したり、観察したり、共同研究したりしながら学んできました。初めて海外に出たのは、40年余り前の1968年でした。当時の航空券は、途中経路上で自由に乗降できる便利なもので、数回の海外出張で、世界の主要な都市などにある大学・政府・研究施設現場を自由自在に訪問できました。

人間の心理を学びたいという夢を持ち、心理学研究室に入ってみたら、様子が予想と全く違っており、実験心理学・科学的心理学が中心でしたが、非常勤講師の宮城音弥先生、波多野完治先生から、隆盛の行動主義心理学と一線画した学びをすることができました。専門分野としていた学習心理学でも、現実に役に立ちそうなプログラム学習やティーチングマシン、その延長としてのコンピュータ教育利用について研究を始めていました。1960年にOECDのCERIがコンピュータの教育利用に関す

世界の現場漫遊学習の楽しみ

東京未来大学学長

坂元 昂 (さかもと たかし)

るワークショップを東京で開いたとき、要請されて参加させていただき、ご縁で、コンピュータ教育活用に関する国際心理学連合(IUPS)の世界プロジェクトに、若造ながら日本代表として参加し、後には、多くの国から講演や協働研究の依頼がありました。

1974年以降、英米系の他、フランス系の公的経済開発機関CNIPEやOECDなどの研究にも参画し、後にはフランス大学長会議で高等教育におけるICT活用について講演をさせられましたが、語学力のなさに恥じました。仏語どころか、たどたどしい英語のため、ほとんど質問もなく、つらい思いをしたことを思い出します。

やや長期にわたって海外の高等教育機関に滞在したのは、30年余り以前の1978年の2月から1年間のことです。指導者の立場でした。私は当時、東京工業大学で教職教育を担当しており、実務にたけた現場に役立つ能力を持った学生を育てたいと、英国のポリテクニック、フランスの高等職業教育に関心を持っていました。幸い1974年頃の大学教育改善会議で講演をすることになり、司会が北ロンドンポリテクニック(NELP)のプロクター校長でした。ご縁を頼りNELPを中心に、ユニークな高等教育機関であったNCAA(National Council for Academic Awards)のしくみを調べたいと思いました。2ヵ月間、先進国アメリカの先端研究現状を学び、体感した後、英国のNELPでは、プロクター校長の自宅に1室提供していただき、

毎日車に便乗し、しばらくは校長室に机まで用意してもらい、ポリテクニックの運営・動きをつぶさに学びました。

イギリスでは、ポリテクニックには学位授与権が無く、代わりにNCAAが一手に握っていました。すべての卒業生はNCAAの学位を取ることになります。そこで、有名な5年ごとのNCAAによるポリテクニック査察が行われるのです。カリキュラム、教育内容、教育方法、研究成果、経理、運営、施設・設備などあらゆる角度からの評価があり、問題点は改善を要求され、時には部門の閉鎖も余儀なくされます。NELPの場合、審査の後、査察委員だけの討論の結論が全教職員に報告されます。組織変更を勧告され、対処することになりました。

私のNELP生活は、実にたのしい、自由に満ちたものでした。研究室を与えられ、講師として扱われていました。もっぱら、教員の相談役、論文作成補佐役でした。先生方は、査読論文を書く経験に乏しく、仲間の相談にのるかたわら、ヨーロッパを初め世界々で講演などをしていました。

並行して、サリー大学の客員教授にもなり、時々研究会やセミナーなどに出席していました。その当時の研究者が後に有名な学者、教育行政官となり未だに親交が続いています。

正統的な心理学と外れた生活をしてきましたが、最近心理学も変わって幅広く現実の問題に真正面から取り組むようになり、喜んでいます。